

關西保育界に於ける童話

大阪中央放送局教養部 足 立 勤

繪を描くことに興味があり趣味を持つてゐる先生達はよく繪を描き、童話をする事に興味のある先生達は童話をするが、興味のない先生は童話なんかしやうとも思はねば又話してきかさねばならぬといふ任務をも感じてゐないで、たと特別に話上手な専門家が時々童話をきかせてやれば結構なこゝであるといふ位の考へしか持つてゐなかつたのが昔の幼稚園の先生であつた。昔といつても十年位前までは、幼稚園の先生方は童話といふものに對して此の程度にししか考へてゐなかつたのではないかと思ふ。それが近年、童話を語ることは、保姆の任務の一つであるといふ考へが盛んになり、童話への關心が非常に強くなつたのは嬉しい事である。

關西に於ける最も權威あり、且つ、既に全國的な存在である、大阪童話教育研究會の幼児童話部が主催して『事變の幼児童話』といふ座談會を昨年春頃開催したところ、大阪市幼稚園の主任方を始め保姆さん達が、百人近く出席され、熱心に研究討議せられた。此の席で論じられた根本問題は、

幼児に對して、事變に關する戰爭談を與へた方がいゝか、與へない方がいゝか、云ふ事であつた。せめて幼児の世界だけは、平和な美しい夢多き時代として過ごさせてやりたい。我々はなるべく戰爭の話よりも美しくやさしい話を選んで與へようではないかといふ意見の人と、男兒は戰爭の話になるを眼をかがやかせ一生懸命になつてきくからさしして話してやりたいといふ意見の人があり、大いに討論されたが兩方に夫々の主張があつて、仲々結論に到らなかつた。司會者の求めに應じて私は「戰爭の話をするしないは一に話者の心構へに依つてきめるべきである。幼兒をして強い刺戟から遠ざけ美しい世界に遊ばせてやりたいのは親心であるが、實際問題として幼兒達が全然事變色に影響されないうで済むだらうか、又かうした時こそ幼い魂へ幼兒に相應しい感激を與へてやることも意義のある事に思はれる、要は、諸君が時代を認識し、はつきりした指導精神を以て話すなら大いに話してやるべしである。何等の指導精神を持たず表面的な愛國心で觀賞的な話し方をするこゝした

ら害こそあれ益は無い。徒らに幼児を興奮される様な事は
さけない。さいつた様な意見を述べた様に記憶してゐる。

それはさもあれかうした研究会に百人近くの人が出席し長
時間に亘つて熱心に眞剣に討議された事は、保姆さん達が
いかに「子供を語る」事に關心を持つてゐるか分る。確かに
に童話に對する關心は深くなつた。が然し、童話を語る實
際狀況はさうか云ふに、まだくお遊戯なさに比べるさ
ほんのおまけかお添物に過ぎない觀がある。これには種々
の理由もあるが、話材の缺乏、話術の研究不足の二つが最
も大きな原因であらう。童話に對する熱情は持つてゐるが、
その熱情を充分に満してくれる、よき話材が少いので不自
由を感じてゐるさいふわけである。手つさり早くすぐ口
かけられるやうな話材が見つけ難い。たさへ自分が讀ん
で、良い話だと思ふものがやつさみつかつたと思つて苦心
して子供達に話しても、子供達には興味なく傾聴してくれ
なかつたり、幼児童話さ銘を打つて出されてゐるものが手
に入つても、全く幼児の世界から遠く作家が自己の藝術的
意慾を満してゐるものに過ぎないものであつたり、やゝ面
白さうなものがあつたさしてもそれはあまりにも陳腐な内
容であつたさ良心的に考へるさ幼児達に話してやるやうな
氣にはなれないものであつたりして仲々いゝ話が手に入ら
ないさいふわけである。そこで、さうしても、保姆自身が、

よき童話を創作するさいふ事が必要になつてくるのであ
る。數年前に大阪市保育會から保姆さん達の童話を蒐録し
た大きな單行本が發行された。その熱意その努力は大いに
尊敬するが、その内容は残念乍ら推賞したいものが少い、
あまりにも、眞實性(現實的に非らず)に缺けてゐるものが
多い。もう一度あつたものが研究され發行されるやう切
望に耐へない。大阪童話教育研究會員の有志が、この點に
著眼して數年前から幼稚園童話のために貢獻せんさ創作に
努力してゐるが、その中には現在、保姆の職にある人達が
多く揃つてゐる事は頼もしくもあり嬉しい事である。

次に話術であるが、これはまだ前途遼遠である。前にも
述べたやうに、保姆である以上、誰でも當然童話を語らねば
ならぬものであるさいふ認識は一般に持たれて來たやうで
あるけれども、それでもまだ多くの場合、保育室の隅でなる
べく人目に立たぬやうに小さくなつて話してやるさいふや
うな引つ込み思案な先生方が多いのではないかと思ふ。保
育室の一隅や運動場の木の蔭で靜かに語りきかせるさいふ
事はほゝゑましくもあり望ましいことであるし、幼稚園で
の童話は決して公開的に大衆的にやる必要はない。折にふ
れ、事にふれて傍に居る園児達に語るのが幼稚園童話でな
くてはならない。然し引つ込み思案は感心しない。いまは
亡き前大阪市教育部長生田五郎氏童話に就て語り合つた

事があつたが、その時、生田氏は『今度、市の主任保姆の論文に「幼稚園の談話」さいふ問題を出した。初め「幼稚園の童話」さいふ題だつたのを「談話」に訂正したよ。どうだろう。幼稚園では童話なんか必要ないだらう』さいふ事を云はれた。私はそれに對して『幼稚園の童話の形式の方がいい、幼稚園に於ける談話を我々は幼稚園童話と銘打つのである』と云つたやうな事を答へて生田氏の共鳴を得た事があつた。私は常に此の意見をもつて童話運動に微力を捧げてゐるものであるが關西の各都市に於ける童話研究團體の友人達が、私と同じ見解のまことに研究努力されたので、その影響もあつてか、心ある幼稚園では各々の保育室で小ぢんまりとした静かな童話の時間が持たれつゝあるやうである。

このやうに幼稚園童話が、所謂公開の大家童話なごのやうに派手に芝居じみた話し方を真似してはならないし、その必要もないのであるが、併し、話術の考慮が全然不要であるさいふわけではない。話材を見て、一體ごの點に最も力を入れて語りうかまか、又この話の重點は一體ごににあるのであるかまか、又この點をいかに語れば幼児に最も理解感銘し易いかさいふやうな研究こそ、眞の話術研究であつて、この種の研究はお遊戯の研究と同等になさねばならぬと思ふのに、それは全く顧みられてゐないといつていい位である。僅かに各都市の童話研究團體に参加してゐる保姆さん達のみが、この種の研究も必要だと思つてゐる位であ

らう。併し右のやうなごは關西に限らず大體に於て全国的に共通する情勢ではないかと思へられるが、ごに一つ特筆すべきごがある。それは大阪市の浪速區三天王寺區の兩區保育會が共同で『幼稚園談話細目』さいふ研究を公にしてゐるごである。この研究に於ては話材から内容から右に述べたやうな意味の話術の研究から、少くも幼稚園の談話に關するあらゆる知識がごに盛り立てゐるさいふつて過言ではなからうと思ふ程よくひろくまごめあげられてゐる。併し、これ程の綿密な研究が出来るにもかゝらず、この研究發表はごこまでも題の如く「細目」であつて、一つの著述でないごは、或る意味で惜しいものである。

この細目を根幹として更に説明を加へたごころの著述であるならば、され程幼児教育界に貢獻するごころ多からうかと思ふ。いづれにしてもこれなごは、關西保育界の誇り得べき一つの研究であり、幼児童話が行はれつゝある情勢如何さいふ間に答へる大きな役割をなしてゐるものと思つて特筆したわけである。

尙この外、主任保姆始め大部分の保姆が大阪童話教育研究會に加つて研究し、全保姆交代で自分の幼稚園に童話をきかせ批判し合つてゐる敬服すべき幼稚園があり、ラヂオの世界にも、保姆さん達が、ぐんぐん進出し始めてゐるが、此の二つの實際に就ては他日機會があつたら題を改めて書く事にする。

(終)